

中学生のダンスのイメージに関する研究[†]

—中学校1年生の自由記述の分析から—

松本 奈緒*・佐々木勝利**

秋田大学教育文化学部*・仙北市立西明寺中学校**

本研究は、中学校1年生（全138名）を対象とし、質問調査紙の自由記述の内容分析から学習者がダンスをどのように認識し、どういったイメージを持っているのかを調査した研究である。研究の結果、以下が明らかとなった。ダンスで連想するものについては、大部分がダンスをフォークダンスやリズム系のダンスとして捉えており、幅広いダンスに対して狭い認識であることが明らかとなった。男女の差に関しては女子の方が多少幅広いダンスを連想する傾向にあった。ダンスのイメージに関しては、カッコいい、ノリのいい、キレのいい、楽しいダンスを連想する生徒が多く、集団で多くの人で踊っているイメージを連想した回答が多く、ダンスのイメージを矮小化して捉えていることが明らかとなった。男女の認識の差についてはほとんどみられなかった。ダンスと体育（スポーツ）の違いとして、生徒は、非競争性、自己表現、創作・思考、芸術性、自由等（特性）、全身を使うや動きの複雑性、体の動かし方（身体や動きの特徴）、リズム・音楽、用具を使わない（付帯する要素）、運動の苦手な人もできる（汎用性）、みんなで協力（協力や共同）について認識した。男女共にダンスの根本的特性や原理に関する重要な点に気づくことができ、男女の認識の差も一部を除いてほとんどみられなかった。

本研究から、現段階の少ないダンスの体験からダンスを矮小化して捉える傾向のある中学生であるが、教師の羞恥心や苦手意識に左右されずダンス指導を実施することでより幅広く深くダンスの特性を理解できる可能性があることが示唆された。また、ダンスの理解において男女差はほとんどないであろうことが推察できた。

キーワード：学習者のダンスに対する認識、中学校体育、ダンスのイメージ、自由記述分析

1. 諸言

学校体育におけるダンス領域は、平成29年度告示の学習指導要領によると「イメージをとらえた表現や踊りを通じた交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動」であり、創作ダンス、現代的なリズムのダンス、フォークダ

ンスの3つの活動から構成されている（文部科学省、2017）。特に中学校段階のダンス実施は、小学校での表現運動の習得内容を踏まえ、よりダンスの特性に触れる内容を体験させる段階にあり、特に平成20年度の男女必修化に伴い男女の区別なく全員が体験することを担保されている。高橋は生涯学習社会でダンスの価値を以下のように述べている。①創作・表現過程における人間の理性・完成・行動のより完全な統合、②非競争的・身体的達成行為、③身体表現美の意識的追求と知的・技能的達成、④集団創作ダンスにみる共同的制作と集団の達成、⑤ライフスパンから見た豊かな参加の可能性、⑥現代社会の非

2020年1月7日受理

[†]Naho MATSUMOTO* and Katsutoshi SASAKI**, Dance image of junior high school students: An analysis of questionnaire free descriptions

*Faculty of Education and Human Studies, Akita University

**Saimyoji-junior high school

人間的状況下でのダンスの持つ癒し機能、⑦能力差を超えた集団の教授の可能性、の7点である(高橋, 1999)。

ダンスといってもその言葉が指し示すものは幅広い。学習指導要領には創作ダンス、現代的なリズムのダンス、フォークダンスの3領域が示されているが、これはダンスを学校のカリキュラムに導入するために設定された教育的ダンスの独自の名称であり、普段受講生である生徒が生活の中で接している場合は他のジャンルや名称、例えば「ヒップホップダンス」や「クラシック・バレエ」、「盆踊り」や「歌舞伎」で認識していることであろう。ダンスという言葉をもどのようなダンスで捉えているかによって、指導者側の認識と学習者側の認識の違いがあれば、それがダンスの学習を始める際にすりあわせをする必要があるだろう。また、ダンスのイメージを肯定的に捉えるか、否定的に捉えるかによって実施や指導の困難さが変わってくると考えられる。中村・浦井(2005)のアンケート調査によると、中学校保健体育教諭は創作ダンスやフォークダンスの実施に対し生徒の興味・関心が低いことが問題点であると捉えていたことが明らかになった。また、松本奈・寺田(2013)の調査によると、中学校保健体育教諭を対象としたアンケート結果から、ダンス領域の指導を行う際の生徒の問題として、苦手意識を持つ生徒や恥ずかしさを感じる生徒への指導が困難であるとの回答がみられた。このような論点から学習者である生徒の視点からダンスといえは何を思い浮かべるかといった問題や、ダンスのイメージについて研究する意義があるであろう。

また、ダンスの独自性とイメージという点から言及すると、ダンスは体育という教科の一領域として位置づきながらも、他のスポーツ種目とは異なった特性を持つ。表現性や創造性がそれであり、競争性を伴い、「より高く、より速く、より強く」という卓越性を目標とするスポーツの各種目とは根本的に目指すものが異なる(平田, 2000)。そのことが授業を担当する指導者にとってダンスに対する分りにくさと敬遠を招いている(松本奈, 2010, 山崎, 2013)。しかし、指導者と学習者のダンスの認識は違いがあるという指摘もあり(酒向ら, 2017)、学習者がダンスのイメージをスポーツと対比してどう捉えているのか明らかにする必要が指摘できるであろう。

これまで、先行研究では、指導者を対象とした意識調査(松本富ら, 1994; 中村・浦井, 2005; 中村2009; 松本奈・寺田, 2013; 山崎朱, 2013)やイメージ(酒向ら, 2013; 2015; 2017)、指導の焦点や教師行動(齊藤・中村, 2008; 寺山・細川, 2011; 安部ら, 2017)についての研究がある。一方で、学習者を対象とした研究は、嗜好やイメージの性差について明らかにした研究(猪崎ら, 2013)、動機づけや楽しさ、イメージについてテキストマイニング法を用いて分析した研究(内山ら, 2013; 内山・阿久津, 2014; 朴ら, 2017)、ジェンダーの捉え方について明らかにした研究(酒向ら, 2017)、実践の評価や成果についての研究(松本富ら, 1996; 村田・松本昌, 2004; 中村・浦井, 2007; 山崎里ら, 2014; 大西ら, 2017; 松本奈, 2012; 2016; 2017; 2018)がある。

これらの先行研究を総括すると、ダンスのイメージについて学習者は、中学生を対象とした研究では、男女問わずどちらかというダンスに抵抗感を持っているということ(酒向ら, 2017)、ダンスについて男子よりも女子の方がより肯定的に捉えていた(猪崎ら, 2013)ことが明らかとなった。また、ジェンダーバイアスで見ると男女別でみると男子も女子もダンスは男性的でもなく女性的でもない中性的なものとして捉えていること(猪崎ら, 2013)、女子生徒はダンスを女性的なもののみならず、男子生徒はダンスを男らしいのみならずしている(酒向ら, 2017)ことが明らかとなった。

これらの研究により、一定の結果と男女別の認識の差という重要な示唆が得られた。しかし、これらの研究は統計的な処理により男女別の有意差検定を行うことが主であり、また、ジェンダーバイアスという限定した視点から行われたものであった。より幅広い視点で学習者がどのようにダンスについて捉えているのか明らかにする必要がある。また、他のスポーツ種目の対比からダンスの特性をどのように捉えているのか確かめる必要があるといえるだろう。

そこで本研究では、学習者である生徒がどのようなダンスのイメージを抱いているのか明らかにすることを目的とする。具体的には以下のリサーチクエスションについて明らかにする。

- 1) ダンスという用語からどのようなもの(ダンス領域)を連想するのか。

- 2) ダンスのイメージをどのように捉えているのか.
- 3) ダンスとスポーツの差をどのように捉えているのか.

2. 研究の方法

本研究の対象者は中学校1年生138名（男子65名, 女子73名）であった.

研究方法は質問調査紙法であり, こちらで設定した調査項目について, 自由回答で回答させた. 質問調査紙の調査項目は以下の3点であった. 1点目として「ダンスと聞くとどんなダンスを思い浮かべますか.」, 2点目として「ダンスと聞くとどんなイメージを持つのか書きなさい.」, 3点目として「ダンスと他の体育（スポーツ）経験との違いは何だと思えますか.」であった.

研究の手続きとしては, リズムダンスの単元実施中にデータ収集を1回行った. 分析方法としては調査項目1, 2については男女別単純集計によって集計した. また, 調査項目3については得られた回答の内容から本研究1名が分類しカテゴリー化した.

3. 結果

3-1. 「ダンス」で連想するものについて

「ダンス」で連想するものについて, 全229の回答があり, 詳細については以下であった（資料1参照）. 男子については, 数の多いものから, 「フォークダ

ンス」, 「ブレイクダンス」, 「恋ダンス」, 「社交ダンス」, 「現代的なリズムのダンス」, 「ヒップホップ」, 「リズムダンス」, 「盆踊り」, 「マイムマイム」, 「ストリートダンス」, 「ロボットダンス」, 「コサックダンス」, 「ボックス」, 「オタ芸」等の回答がみられた. 女子については, 数の多いものから「フォークダンス」, 「ポップス（アイドルの）」, 「ヒップホップ」, 「ブレイクダンス」, 「恋ダンス」, 「創作ダンス」, 「リズムダンス」, 「ジャズダンス」, 「〇〇踊ってみたのダンス」, 「ロボットダンス」, 「ABC」, 「チアダンス」, 「バレエ系」, 「社交ダンス」等の回答がみられた.

3-2. ダンスのイメージについて

ダンスのイメージについては, 全166の回答があり, 詳細については以下であった（資料2参照）. 男子については, 数の多いものから, 「かっこいい」, 「リズムに合わせる」, 「激しい」, 「楽しい」, 「カッコよくキレがるイメージ」, 「テンションがあがる」, 「難しい」等の回答があった. また, 回答数は少なかった（1回答）が, 「見せるもの」, 「細かい動きをするイメージ」, 「ダンスとダンスで表現し合うバトルをしているイメージ」, 「ヘッドスピン」, 「気楽な感じ」, 「楽しくて愉快的なイメージ」, 「踊る人がいて集団でやる」, 「個性がメッチャでる」, 「様々な踊り方や表現があり面白い」, 「上手な人と下手な人がはっきり分かれてしまう」等の回答もあった. 女子については, 数の多いものから, 「楽しいイメージ」, 「かっこいい」, 「明るい」, 「キレッキレツ」, 「みん

資料1 「ダンス」で連想するもの

男子	(全 111 回答)	女子	(全 118 回答)
・フォークダンス	(16)	・フォークダンス	(18)
・ブレイクダンス	(10)	・ポップス（アイドルの）	(15)
・恋ダンス	(4)	・ヒップホップ	(9)
・社交ダンス	(4)	・ブレイクダンス	(9)
・現代的なリズムのダンス	(4)	・恋ダンス	(6)
・ヒップホップ	(4)	・創作ダンス	(5)
・リズムダンス	(3)	・リズムダンス	(4)
・盆踊り	(2)	・ジャズダンス	(3)
・マイムマイム	(2)	・〇〇踊ってみたのダンス	(3)
・ストリートダンス	(2)	・ロボットダンス	(2)
・ロボットダンス	(2)	・ABC	(2)
・コサックダンス	(2)	・チアダンス	(1)
・ボックス	(2)	・バレエ系	(1)
・オタ芸	(2)	・社交ダンス	(1)
他		他	

資料2 ダンスのイメージについて

男子	(全 73 回答)	女子	(全 93 回答)
・かっこいい (7)		・楽しいイメージ (13)	
・リズムに合わせる (5)		・かっこいい (8)	
・激しい (4)		・明るい (3)	
・楽しい (4)		・キレッキレ (3)	
・カッコよくキレあるイメージ (2)		・みんなで楽しく踊るイメージ (2)	
・テンションがあがる (2)		・大変そう (2)	
・難しい (2)		・難しそう (2)	
・魅せるもの (1)		・自由なイメージ (2)	
・細かい動きをするイメージ (1)		・激しくかっこいい感じのダンスをイメージします (1)	
・ダンスとダンスで表現し合うバトルをしているイメージ (1)		・ノリノリ (1)	
・ヘッドスピン (1)		・リズムに合わせる (1)	
・気楽な感じ (1)		・全身で表現 (1)	
・楽しくて愉快的なイメージ (1)		・難しくプロが踊るもの (1)	
・踊る人が大勢いて集団でやる (1)		・たくさん動く (1)	
・個性がメッチャでる (1)		・ゆっくりしたのから激しい動きがあるのまで様々なものがあるということ (1)	
・様々な踊り方や表現があり面白い (1)		・踊れたらかっこいい (1)	
・上手な人と下手な人がはっきり分かれてしまう (1)		・踊るのが難しい (1)	
他		他	

などで楽しく踊るイメージ, 「大変そう」, 「難しそう」, 「自由なイメージ」等の回答があった。また, 回答数は少なかった (1 回答) が, 「激しくかっこいい感じのダンスをイメージします」, 「ノリノリ」, 「リズムに合わせる」, 「全身で表現」, 「難しくプロが踊るもの」, 「たくさん動く」, 「ゆっくりしたのから激しい動きがあるのまで様々なものがあるということ」, 「踊れたらかっこいい」, 「踊るのが難しい」等の回答もあった。

3-3. ダンスと他の体育 (スポーツ) 経験との違いについて

ダンスと他の体育 (スポーツ) 経験等の違いについては全170回答が得られた, 詳細は以下であった (資料3 参照)。

男子については, ダンスの特性について, 「ダンスは競い合うことがない」等の「非競争性」, 「体でものごとを表現する」等の「自己表現」, 「自分達ですべてを考えられる」等の「創作・思考」, 「体を動かしているけど, 見た目は芸術性がある」等の「芸術性」, 「自由な表現」等の「自由」, 「ダンスは決まっていない, スポーツは決まっている」等の「決まっていない」の回答がみられた。また, 付帯する要素に関連して, 「音楽に合わせること」等の「リズム・

音楽」, 「ものを使わないでできる。(球技はボールを使うが, ダンスは自分の体だけを使ってできる。)」等の「用具を使わない」の回答がみられた。また, 身体や動きの特徴に関して, 「足だけでなく, 全身を使う」等の「全身を使う」, 「体の使い方」等の「体の動かし方」, 「ステップの種類などが多い」等の「動きの複雑性」, 「運動量が適度であること」等の「運動量が適度」の回答がみられた。また, 汎用性に関して, 「スポーツは技術がある, ダンスは誰でもできる」等の「誰でもできる」の回答がみられた。また, 協力や共同に関して, 「皆で協力して取り組めること」等の「みんなで協力」の回答がみられた。また, その他に関して, 「ダンスは1人でできるところ」の「ひとりでできる」, 「上品」の「上品」の回答がみられた。

女子については, ダンスの特性について, 「ダンスはみんなで楽しむ, 他の体育は競い合う」等の「非競争性」, 「体全体をつかって何かを表現するところ」等の「自己表現」, 「自分達で創作すること」等の「創作・思考」, 「芸術の部分」の「芸術性」, 「スポーツはある程度動きが定められていたり, 見本があったりするが, ダンスは自分の思うままに自由に踊れる」等の「自由」, 「ダンスはふりつけを覚えるとかだけけど, スポーツはあらかじめあるルールから

資料3 ダンスと他の体育（スポーツ）経験との違いについて（抜粋）

男子 (全 64 回答)	女子 (全 106 回答)
非競争性 (9)	非競争性 (6)
<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスは競い合うことがない ・勝ち負けがつきにくい ・体育でするスポーツは出来栄が評価されたり勝ち負けがあったりするが、ダンスはあまりない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスはみんな楽しんで、他の体育は競い合う ・記録で競わない ・「勝負」という感覚がないので、自分の好きな動きを自分のペースでできる
自己表現 (6)	自己表現 (6)
<ul style="list-style-type: none"> ・自己表現 ・体でものごとを表現する ・自分の気持ちを相手に表現するのを動きにしたということ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でダンスの中に表現ができること ・体全体をつかって何かを表現するところ
創作・思考 (2)	創作・思考 (5)
<ul style="list-style-type: none"> ・自分達ですべてを考えられる ・オリジナルの動きをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分達で創作すること ・自分で考えるところ
芸術性 (1)	芸術性 (1)
<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かしているけど、見た目は芸術性がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術の部分
自由 (3)	自由 (3)
<ul style="list-style-type: none"> ・自由な表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツはある程度動きが定められていたり、見本があったりするが、ダンスは自分の思うままに自由に踊れる
決まっていない (2)	体のいろいろな部分を動かす (2)
<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスは決まっていない、スポーツは決まっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段はあまり動かさない部分も動かせるところ
全身を使う (3)	体の動かし方 (4)
<ul style="list-style-type: none"> ・全身を使う ・足だけでなく、全身を使う 	<ul style="list-style-type: none"> ・体の動かし方など
体の動かし方 (1)	動きの複雑性 (2)
<ul style="list-style-type: none"> ・体の使い方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップを入れるところ
動きの複雑性 (3)	動きを合わせる (1)
<ul style="list-style-type: none"> ・ステップの種類などが多い ・動きが複雑 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りと合わせる（動きをそろえること）
運動量が適度 (1)	ルールを伴わない (2)
<ul style="list-style-type: none"> ・運動量が適度であること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスはふりつけを覚えるとかだけど、スポーツはあらかじめあるルールからやる
リズム・音楽 (13)	役割を伴わない (1)
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせること ・リズム、音があるかないか ・リズムに乗る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスはみんなリズムに合わせる、他の体育は一人一人が自分の役割を果たす
用具を使わない (5)	リズム・音楽 (24)
<ul style="list-style-type: none"> ・ものを使わないでできる。(球技はボールを使うが、ダンスは自分の体だけを使ってできる。) ・道具はいらない 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽があるかないか ・リズムに合わせること
誰でもできる (8)	覚える (1)
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツは技術がいる、ダンスは誰でもできる ・ダンスは体力はいらませんが、スポーツではいる ・誰でも楽しめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・覚えることが多い
みんなで協力 (5)	誰でもできる (6)
<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで楽しくおどれる←あまり戦わないから ・皆で協力して取り組めること 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動が苦手な人でも楽しくできる ・できるできないがあまりない
ひとりでする (1)	みんなで協力 (9)
<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスは1人でできるところ 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで楽しく踊れる ・1人ができていても、周りができなければ成り立たないのがダンス
上品 (1)	楽しむ (3)
<ul style="list-style-type: none"> ・上品 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスは楽しんでやるもの、体育（スポーツ）は真面目さ（？） ・みんなを楽しい気持ちにさせる ゆるくてもいい (2) ・少しゆるくてとても楽しめる
	真似できる (1)
	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツは真似しづらいけれど、ダンスは他の人が真似できる 等

やる」の「ルールを伴わない」、「ダンスはみんなでリズムに合わせる、他の体育は一人一人が自分の役割を果たす」の「役割を伴わない」の回答があった。また、付帯する要素に関連して、「音楽があるかないか」等の「リズム・音楽」の回答があった。また、身体や動きの特徴に関して、「ステップを入れるところ」の「動きの複雑性」、「普段はあまり動かさない部分も動かせるところ」の「体のいろいろな部分を動かす」、「体の動かし方など」の「体の動かし方」、「周りと合わせる（動きをそろえること）」の「動きを合わせる」、「覚えることが多い」の「覚える」の回答があった。また、汎用性に関して、「運動が苦手な人でも楽しくできる」等の「誰でもできる」の回答がみられた。また、協力や共同に関して、「1人ができていても、周りができなければ成り立たないのがダンス」等の「みんなで協力」の回答がみられた。また、その他として「ダンスは楽しんでやるもの、体育（スポーツ）は真面目系（？）」の「楽しむ」、「少しゆるくてとても楽しめる」の「ゆるくてもいい」、「スポーツは真似しづらいけれど、ダンスは他の人が真似できる」の「真似できる」の回答がみられた。

4. 考察

4-1. ダンスで連想するもの、ダンスのイメージについて

ダンスで連想するものについては、ダンスをフォークダンスやリズム系のダンス（ストリート系ダンスやアイドルが曲に合わせて踊るダンス）として捉えていた。創作ダンスとして捉えたのは、女子のみにみられ、少数であった。その他、社交ダンス、チアダンス、バレエ等の回答もみられた。また、ジャンルは分からないが、インターネットやテレビのCMで目にするダンスを回答する生徒もいた。

ダンスのイメージに関しては、かっこいい、ノリのいい、キレのいい、楽しいダンスを連想する生徒が多かった。また、個人で踊るのではなく集団で多くの人で踊っているイメージを連想した回答が多かった。また、「様々な踊り方や表現があり面白い」、「ゆっくりしたのから激しい動きがあるのまで様々なものがあるということ」といった、ダンスの表現や動きの多様性に言及した少数であった。さらに、これらの回答について、男女の差についてはほとんどみられなかった。

以上のことから、ダンスと言えはおおむねリズム系のダンスを連想していることが推察される。ダンスとは元来、民俗（民族）舞踊、バレエやモダンダンス等の劇場舞踊、社交ダンス、ストリートダンス等の多様性を持ち、明るく元気で格好のよいものから、暗くて不気味なものまで幅広いものであるが、中学生が持つダンスのイメージが本来のダンスの多様性に比べ偏っていることが明らかとなった。今回、回答が多かったフォークダンスは対象者がすでに研究授業として経験したものであったし、ストリート系ダンスやアイドルが曲に合わせて踊るリズム系のダンスやかっこよくノリのよい楽しいイメージのダンスは、テレビを中心としたマスコミ等で多くみられるものであるため、中学生が普段体験したり、見聞きしたダンスのジャンルに大きく影響されたことが推察できる。また、男子に比べ、女子の方が創作ダンスやチアダンス、バレエ等より幅広い回答になったことも、男子よりも女子の方が多様なダンスとの接点が多いことが推察できる。

4-2. ダンスと他の体育（スポーツ）経験との違いについて

ダンスと他の体育（スポーツ）経験との違いについては、男女共に明確な回答が多数、多種得られ、多種類の違いに気づいていたと考察できる。特に、ダンスの非競争性や自己表現、芸術性といった重要な特性に気づいていたことは特筆すべきであると考えられる。また、先述したダンスで連想するもので回答されたダンスは定型のものが多いが、それに反し、自分たちで作ったり考えたりするダンスの創作・思考の部分にも気づいており、中学生の生徒にとってダンスはあらかじめあたえられた振付を踊るものではなく自分達で作りに出すイメージを持っていることが明らかとなった。また、さらに、体育（スポーツ）に対し、ルールを守ったり役割を果たすものというイメージを持ち、それに反し、ダンスはより自由性の高いものであるという認識を持つことが明らかとなった。こういった自由性の高い部分が、ダンスは誰でもできるという汎用性の認識につながったことが考えられる。

また、動きの特性についても、全身を使ったり身体の様々な部位を動かすこと、ステップ等の複雑な動きを行うことについても、その特徴として捉えていることが分かった。ラバンはムーブメント原理の

うち、「身体 (body)」を重要な動きの要素として捉えており、多様な動きや様々な身体部位を使った動きがダンスの重要な要素として位置づけている (ラバン, 1985)。スポーツは様々な文化的背景やルールの元、運動が様式化され特定の技術やフォームを持っているが、それとの違いを中学生の生徒は十分認識していたことが今回の調査から明らかとなった。

また、リズムに合わせる、音楽に合わせるといった、リズム・音楽についても、体育 (スポーツ) との違いと捉えていたことが明らかとなった。ダンスから連想するものがリズム系のダンスが大多数であることから、ダンスにリズムや音楽が付きものであると生徒が認識したと考えられる。また、ボール等の用具についても、体育 (スポーツ) は使用するがダンスは使用しないことについても認識し、その違いとして捉えていた (男子) ことが明らかとなった。

みんなで協力についても、ダンスの作品を作ったり踊ったりすることに伴う共同性や、スポーツにも協力する部分があるが、非競争性を持つことによりみんなで実施しやすく情動的な高揚感が得られることが回答より明らかになった。高橋 (1999) はダンスの価値の内、ひとつを「集団創作ダンスにみる共同的制作と集団的達成」であると述べたが、それと同じ内容を中学生の生徒は認識できていたことが明らかとなった。

ダンスと他の体育 (スポーツ) 経験との違いについての男女の回答の差について言及すると、回答内容はおおむね同じであり、[用具を使わない] に関して男子のみに回答があり、[ルールを伴わない]、[役割を伴わない] に関して女子のみ回答があったことが明らかとなった。従って、ダンスと他の体育 (スポーツ) 経験との違いについての認識は男女の違いはほとんどなく、用いる用具があるかないかへの意識が男子にのみあり、女子の方がよりスポーツのルールや役割について意識した結果、ダンスとの違いとして捉えたこと、の一部にのみ違いがみられることが明らかとなった。

以上のことから、中学校の生徒はこれまでの経験や接点からダンスの領域やイメージをリズム系ダンスを中心に矮小化して捉える傾向があった。しかし、体育 (スポーツ) との比較による記述分析によるとダンスの特性や動きの特徴を良く捉えているので、ダンスを幅広く正しく理解する能力は高いと考

えられる。従って、教師の羞恥心や苦手意識に左右されずダンス指導を実施し、より幅広い多様なダンス活動に触れさせることで、中学生はダンスをより広く深く理解・学習できダンスの特性に触れる学習体験ができるであろうと考えられる。また、本研究のダンスの捉え方やイメージにおいて、男女差は少なかった為、男女関係なくダンスを理解し学習が行えるであろうことが考えられる。

5. まとめ

本研究では、中学校1年生全138名 (男子65名、女子73名) にアンケート調査を実施し、ダンスで連想するものやイメージ、体育 (スポーツ) との違いについて調査した。自由回答の内容の分析の結果、以下のことが明らかとなった。

1. ダンスで連想するものについては、大部分がダンスをフォークダンスやリズム系のダンス (ストリート系ダンスやアイドルが曲に合わせて踊るダンス) として捉えていた。創作ダンスとして捉えたのは、女子のみにみられ、少数であった。多様な活動を含むダンスの概念に比べ、ごく一部の狭い認識であることが明らかとなった。男女の差に関しては女子の方が多少幅広いダンスを連想する傾向にあった。
2. ダンスのイメージに関しては、カッコいい、ノリのいい、キレのいい、楽しいダンスを連想する生徒が多かった。また、個人で踊るのではなく集団で多くの人で踊っているイメージを連想した回答が多かった。ダンスの表現や動きの多様性に言及した回答はきわめて少数であり、ダンスのイメージを矮小化して捉えていることが明らかとなった。男女の認識の差についてはほとんどみられなかった。
3. ダンスと体育 (スポーツ) の違いとして、生徒は、非競争性、自己表現、創作・思考、芸術性、自由等の特性、全身を使うや動きの複雑性、体の動かし方等の身体や動きの特徴、リズム・音楽、用具を使わない等の付帯する要素、運動の苦手な人もできる等の汎用性、みんなで協力等の協力や共同について認識した。男女共にダンスの根本的特性や原理に関する重要な点に気づくことができ、男女の認識の差も一部 (用具の使用とルール・役割の

認識)を除いてほとんどみられなかった。

本研究から、現段階の少ないダンスの体験からダンスを矮小化して捉える傾向のある中学生であるが、教師の羞恥心や苦手意識に左右されずダンス指導を実施することでより幅広く深くダンスの特性を理解できる可能性があることが示唆される。また、ダンスの理解に対する男女差もそれほどなく学習が行えるであろうことも示唆された。

付記：本研究は秋田大学手形地区ヒトを対象とした研究倫理審査委員会による研究倫理審査を受け受理され(第29-11号)実施されています(平成29年10月31日受理)。

参考文献

- 安倍健太郎・大西祐司・住友 純(2017) 現代的なリズムのダンス授業における教師が獲得する知識。びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要, 14 : 61-71.
- 平田 忠(2000) スポーツイメージに関する研究(1) -日本人大学生におけるスポーツのイメージ-。仙台大学紀要, 31(2) : 47-58.
- 猪崎弥生・酒向治子・永田麻里子・田中俊之・米谷淳(2013) 中学生のダンス・イメージ, ダンスに対する態度, ダンス授業の評価: 質問調査紙を基に。お茶の水女子大学人文科学研究, 9, pp.15-24.
- ラバン, ルドルフ(神沢和夫訳), 身体運動の習得(第二版)。白水社: 東京, 1985.
- 松本奈緒(2010) ダンス領域を教えるうえで, 授業のポイントとは何か。学研・教科の研究-保健体育ジャーナル(学研教育みらい), 91 : 1-4.
- 松本奈緒(2012) 秋田の盆踊りの学習における学習者の認知研究-デジタルコンテンツを用いたダンス学習での自主的学習における学習者の認知の変化-。秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要, 34 : 57-70.
- 松本奈緒・寺田 潤(2013) 男女必修化時代の中学校ダンス実施の現状と指導者の問題意識-秋田県中学校保健体育教諭の研修レポートを参考として-。秋田大学教育文化学部研究紀要 教育科学部門, 68(4) : 25-34.
- 松本奈緒(2016) 学習資料を工夫したリズムダンスの授業における学習者の認知-動きのカードとキネクトによる動きの提示から-。秋田大学教育文化学部研究紀要教育科学部門, 71 : 115-125.
- 松本奈緒(2017) 中学校段階のリズムダンスの授業における学習者の形成概念-カードとキネクトによる動きの提示とタブレット型PCによる動きの確認を工夫して-。秋田大学教育文化学部研究紀要教育科学編, 72 : 111-122.
- 松本奈緒(2018) 中学校段階のフォークダンスの授業における学習者の認知-タブレットを用いインターネットで調べたフォークダンスを踊ることを中心にした協働学習-。秋田大学教育文化学部研究紀要教育科学部門, 73 : 83-93.
- 松本富子・神戸 円・国枝タカ子(1994) ダンス学習における選択制実施について-中学校・高校現職教員への全国調査から-。群馬大学教育学部紀要, 芸術, 技術, 体育, 生活科学編, 29 : 95-108.
- 松本富子・高橋健夫・長谷川悦示(1996) 子どもからみたダンス授業評価の構造-中学校創作ダンスに対する評価の分析から-。スポーツ教育学研究, 16 : 47-54.
- 文部科学省, 中学校保健体育学習指導要領解説, 2017.
- 村田芳子・松本昌代(2004) 生涯学習に向けた「リズムダンス」・「現代的なリズムのダンス」の学習指導に関する縦断的研究。日本女子体育連盟学術研究, 26 : 21-44.
- 中村恭子・浦井孝夫(2005) 中学校における体育の種目選択制に関する研究-ダンス領域を中心とした現状と問題点-。順天堂スポーツ健康科学研究, 9 : 52-56.
- 中村恭子・浦井孝夫(2007) 学習成果から見たダンスの教材特性の検討-生徒の学習評価の観点から-。順天堂大学スポーツ健康科学研究, 11 : 10-20.
- 中村恭子(2009) 中学校体育の男女必須化に伴うダンス授業の変容-平成19年度, 20年度, 21年度および24年度の推移から-。日本女子体育連盟学術研究, 26 : 1-16.
- 大西祐司・藤井豊康・安部健太郎(2017) 中学校3年生を対象とした現代的なリズムのダンスにおける授業実践-教師が考えた振り付けから生徒が作る振り付けへ。びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要,

- 14 : 97-104.
- 朴 京眞・平山素子・寺山由美・囃子美和・米澤麻佑子 (2017) ダンスの授業を選じた大学生のもつダンスのイメージのテキストマイニング分析ー大学体育におけるダンス授業のあり方の検討ー. 大学体育研究, 39 : 29-44.
- 齊藤 南・中村なおみ (2008) ダンス課題学習における実践経験差による教師の行動の検討ーグループ学習を活性化させるための教師の関わり方ー. 仙台大学大学院スポーツ科学研究科修士論文集, 9 : 1-9.
- 酒向治子・永田麻里子・原智波・角南順子・猪崎弥生 (2013) 教員と中学生のダンスに対するジェンダー・バイアス. 岡山大学大学院教育学研究科研究集録, 152 : 45-49.
- 酒向治子・永田麻里子・猪崎弥生 (2015) 中学校女性体育教員のダンスに対する抵抗感と羞恥心について. 岡山大学大学院教育学研究科研究集録, 155 : 109-113.
- 酒向治子・平田麻里子・猪崎弥生 (2017) 小学校教員のダンスに対するジェンダー・イメージ, 抵抗感と羞恥心について. 岡山大学大学院教育学研究科研究集録, 164 : 85-90.
- 高橋健夫 (1999) 共催シンポジウム・生涯学習社会におけるスポーツとダンス：体育科教育の立場から. 日本体育学会大会号, 50 : 163.
- 寺山由美・細川江利子 (2011) 表現・創作ダンスの学習における「即興表現」の指導とその捉え方ー実践を続けてきた4人の教諭に着目してー. 日本女子体育連盟学術研究, 27 : 21-38.
- 内山須美子・松尾健太・奥山美希 (2013) ダンス学習の動機づけに関するテキストマイニング分析ー中学生の「現代的なリズムのダンス」の授業を事例としてー. 白鷗大学教育学部論集, 7(1) : 71-108.
- 内山須美子・阿久津隼佑 (2014) ダンス学習の楽しさに関するテキストマイニングによる分析. 白鷗大学教育学部論集, 8(1) : 89-114.
- 山崎朱音 (2013) ダンス授業実践に向けた実技研修の在り方：静岡県内中学校教員のダンス授業の実

施状況の把握を通して. 静岡大学教育実践総合センター紀要, 21 : 73-81.

山崎里奈・豊川隼可・小野澤克己・小口亜紀・石井紀子・河口仁美 (2014) 「中学校ダンスの授業をどう創るか」に関わる研究. 相模原市立総合学習センター教育研究集録, 232 : 91-116.

Summary

In this study, it focused in junior high school students (N=138) cognition what was recognized about dance, how did image hearing 'dance', what difference was recognized between dance and physical education (sports). From analysis contents questionnaire free descriptions, it was clarified as follows; Students recognized 'dance' as rhythmic dance, it suggested that it was too narrow as whole dance area. And girl's recognition was a little wider than boy's recognition about this issue. ; Students imaged dance as cool, groovy, sharp, fun. There was little description about dance variation about expression and movement. It was thought they recognized dance as too narrow meaning. And about this issue there is no difference boy's and girl's; As difference between dance and PE (sports), students recognized non-competitiveness, self-expression, creation and thinking, artistry, free as nature of dance, whole body movement, movement complexity as body and movement characteristic, rhythm and music, equipment as incidental factor, everyone can do as versatility, collaboration with everyone as cooperation and collaboration. There is no difference between boy's and girl's about this issue.

Key Words : students' cognition for dance, junior high school PE, dance image, analysis of questionnaire free descriptions

(Received January 7, 2020)